

森本淳吉 ひのぶきち 経済学者、法學博士。明治十一年二月二十日出生れ、昭和二十五年一月二十一日歿（ハセヤ一九〇）。葬山。昭和二十四年札幌農學校卒。在學中直島武郎の親父。東洋學院教諭を経てアメリカに留学。大正七年北洋道帝國大學教授。十一年文化普及會会長、「雑誌『文化生活』」を創刊。まだ女子高等師範等講院を創立し、女子經濟専門學校理事長も務めた。妻森木靜子（舊姓山田、明治十八年一月生れ）は、戰後東京文化短期大學教授。

著書『リビングストン』（内題「リビングストン傳」）と武郎共著、『明治二十四年』（内題「十九の藝術社書店」）、『生活經濟の新能率』（大正九年九月五日經濟社）、「私の生活」（吉野作造、武郎合著、大正九年五月）、十五の文化生活研究會（大正十一年十一月）、『日本文化生活研究會出版部』、「新日本の建設」（久松・小林謙助著、大正十一年六月十日岩波書店、小林久一人藏専門出版）、「生活の幾の理想」（大正十二年五月）、『日本文化館』、「家庭の問題」（大正十三年七月十五日同文館）、「家庭經濟の合理化」（昭和八年四月一日同上）等。

